



㊦カウラの日本人墓地で5日、秋元義孝・駐オーストラリア大使らと共に、犠牲となった豪軍人の墓石に献花する村上輝夫さん(93)＝右から2人目。当時の捕虜で唯一、今回現地入りした
㊧捕虜収容所跡地で4日夜に行われた行事には、多数のちょうちんが飾られ、「平和」と書かれたものもあった＝オーストラリア東部ニューサウスウェールズ州カウラ、いずれも郷富佐子撮影



カウラ 和解の祈り

日本兵脱走事件70年、豪で行事

太平洋戦争中の1944年8月、オーストラリア東部ニューサウスウェールズ州カウラにあった捕虜収容所で、日本兵捕虜約1100人が集団脱走を図って失敗した「カウラ事件」から70年となった5日、現地で記念行事が行われた。

5日午前2時(日本時間同1時)。シドニーの西約320キロにあるカウラ捕虜収容所跡地で、真冬の夜空に閃光弾が打ち上げられた。気温0度の暗闇のなか、集まったカウラ市民らが黙禱する姿がみられた。事件当日、捕虜たちは突



撃ラッパを響かせながら、手製のバットやナイフを手に脱走を試みたとされる。脱走兵のうち230人以上が射殺されたり自決したりして亡くなったほか、料理用のナイフで刺されるなどして豪州人兵士4人も死亡した。捕虜になることを恥とし、集団脱走で死を望んだ日本人の行動に、豪州の政府や国民は衝撃を受けた。

戦後、「和解と平和の象徴」として日本人墓地と日本庭園が造られ、両国市民の手で桜を植樹する運動なども始まった。

カウラ市では1日から、70年を記念する展覧会や交流会などの行事が続いている。4日には当時の捕虜で唯一、現地入りした鳥取市の村上輝夫さん(93)が、地元の関係者や高校生らと交流。5日午前には、日本人墓地で慰霊祭なども行われた。(カウラ＝郷富佐子)